

里見義
合著
世界
政治
史
下

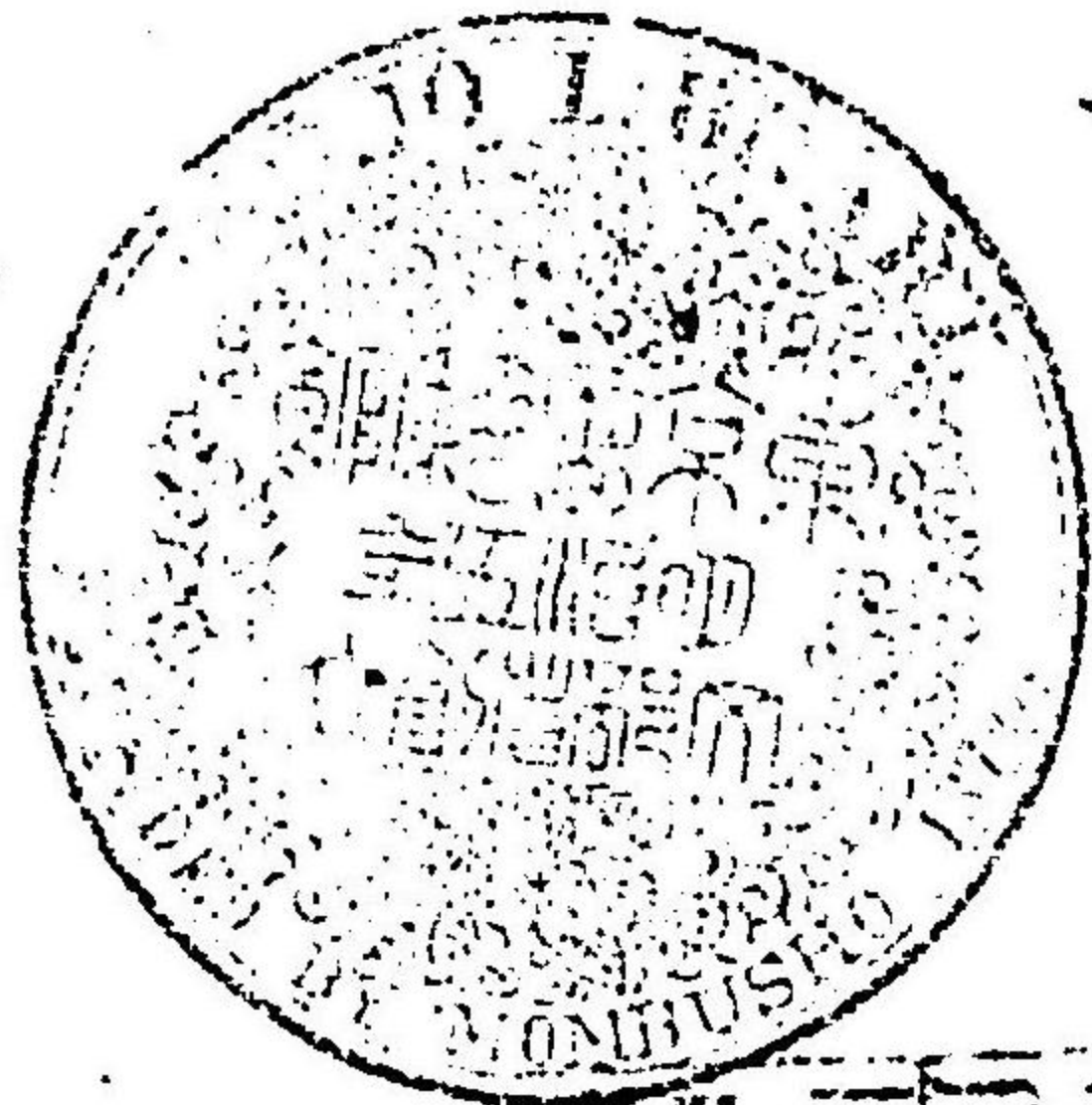
特35
館藏書
室
759
五
二冊
〇號
三架
一函

水

世界のそと

巻末

明治九年三月



書籍部

里見 義

合著

二木 政佑

副田 楽三 校

童児問曰吾

皇國開闢の説既ふ大概を聞き

西洋人の言ふ処別ふ新論ありや御教へ願ふ処

あり

答曰 皇國開闢説御承知の上尚又西洋説研窮
のよゝ感をもる処より大凡万物始め非るふゝ君
等此年より先世界の始めをいり追々天文歴史
諸の学ふ渡賜りゞ後日賢明とも呼るへゝ西洋
人の説処譯述をへゝ聞と成へ
世界の始めの天地万物を不朽の主宰する物を
造物主と唱ふ不死の一神をいり此をゴツトとい
ふ最上勝れとる神ふゝて限りなき此精心宇中

第一此物と譯せり又耶和華共唱ふポルトハ上
貴人と譯せり此神天と地とを造れり然るふ天
地始めて開けり時ハ世界を形容せへき物をいり
唯深き淵の表に瞑くして静ありり物をいり此時
神乃心水面に浮み動きて光りと言ふ物を造り
出さんと思ふ心ふ成より故に先光りと言ふ物
出来より神この光りを見て善いと賞せり其光
りと暗とを分ちとり故に始めて晝夜あり此に

世界史 卷の二

又朝と言ふ時と夕と言ふ時あり此を集めて
晝夜と言ふ爰あ一日を作せり是を最初の一日
といふ

耶和華あをがら此水中あをがらに彼蒼を造らんとして上と下との

水を分つたり遂あをがらに彼蒼を作したり故に大空以上

に水と大空以下の水と截然として中断へたり

爰に於て今見るが如くなりしあり神神と言ふ

華をり以後其蒼々とする物を名付きて天と呼び

をせり朝なり夕あり此を第二日とい

按ずるに大空を仰ぎ望みて蒼々と見ゆる物

に生氣の集りて見ゆるなり遠山を望めを濃

ゆく近山を見まを薄し是生氣より又深水は

臨めが濃ゆく淺水を見まは薄し其色は則湿

氣より茲に水を上下に分つと有るに則氣を

分けし生氣と湿氣とを分つことら則世界の

人畜の生氣を養ふま魚鼈の湿氣を養ふまは



ふり

神曰天下の水の宜しく一處に集めて地を乾く
すへいとて是が為めおそとらけり故に現在見
るが如く成りたるをり其乾きたる處を陸と呼
び其水の集りたる處を海とい言ふをり神善と
賞を又思ふ此地物を植べると則種々の草木
を生せしめたり野菜の蒺藜と言ひ瓜茄子西
瓜の類を殖へ樹木の菓と言ひ橘栗柿等の物

を植たり神の心のまゝに蔬樹蕃茂し其類も隨
ふて生長せり神善しと賞を此日朝とり夕あり
是を弟三日とい

神曰大空中宜しく光りを列ぬて物を照さしむ
へいと又曰一時一日一月一年を分つるとして
當時の如くなりあり神二の巨大なる光りを
造る其中ふても別して大なる物も晝を司らし
め少しく光る物も夜を主とらしむ又衆星を作

り之を空中に列ね置きたり而して此地上を照
 さしむ漸く晝夜を分ち光と暗とを分てり神是
 をとて善と賞を夕つり朝つり是を第四日とい
 神の曰水は宜しく多少に動物を生せしむへ
 し又鳥を造りて地は飛ひ空は至りしむへ
 として先魚を造り大鯨を初め多少の魚類イサ魚
 等に至るまで生活運動せる魚類を造り出して
 各其類に随ひて飛鳥も大鳥小鳥駉トく造り出

して其類に従へしとて神祝して曰既に度な
 る哉と何故なまを魚を海中に充滿し鳥は地上
 に蕃息すれはなり此日夕つり朝つり第五日と
 也

神曰地は又諸の生物を置へしと則ち生物を
 造り野に走る牛馬犬羊此類又地は匍行する
 の昆虫大小悉く造り終りて各其類に随うと
 めしとて則現在の如く萬づ此物地は満て蕃殖せ

り神亦善しと賞せり而して神の思ふふ魚獸
空に飛ぶの鳥逆も蕃茂せり然る上の吾形の如
き物を造りて海陸の物全地匍行の虫及び草木
逆も主らしめんとて己が形に倣りて男と女と
を造り神大に悦へり乃人言ふて曰凡生の
る物斯の如く衆くして地に盈り汝善之を治め
よ魚や鳥地上に諸物より始め滿地実を結へる
此菜蔬菓を懐くの菓樹是も亦汝に賜ふ食用と

成へり又曰獸や鳥并に匍行の諸物へ乃ち草を
與へる食と作らしめんと告ぐり故に今の如く
よりより此日夕なり朝なり此を第六日とい
凡此の如く意匠して天地万物皆備りたり七日
目を是の大功業成就せしを以て終日神も休息
し賜へり此の通りあるふよりて此日を祝して
聖日とを言ふなり
問曰人間血統は如何なるをふや又何物より



て人物を造り出せーや

答曰造物主天地を造る時草木未ど地ふ萌さ
ぎ雨露未ど地ふ降りど人地を耕さるへ論を
待とど満地只霧を噴出ー面を潤きの廻ち神
地の塵をとりて人物を造り生氣を其鼻孔ふ吹
匂めとり始めて人活動まる事を得とりと言へ
り

問曰此の人物へ何と言ふ世界ふ生せーや

答曰五大洲の中亞細亞と承える此亞細亞の西
部ふ埃田イデジと言ふ地あり神此地ふ大なる樹園を
開きり而して其造る所此人を其中に置いて諸の
樹の葉花を見て慰む多く食ふく腹ふ飽くへの
らーむ然るふ地の生るふ隨ひく園中ふ人の
生命を主とする此樹を生せり又人の是非をーり
善悪を悟るの樹も生ーとりーの大河ありて此
園中ふ灌ぐり彼の河を四派ふ分てり曰此ポソン遼河

是ハ^{ハビラ}哈腓拉^ラと言ふ地を廻る此地金を出^シ其金

最も精一^一亦珍珠^一譯^一碧玉を^一も生^一も其^一二^一を^一其^一訓^一

河^一と言^一ふ古^一實^一の地^一を^一巡^一る^一三^一を^一希^一底^一結^一河^一とい^一ふ

亞^一述^一の地^一ハ^一流^一る^一又^一百^一辣^一河^一とい^一ふ有^一りと^一ぞ^一或^一時

神^一其人^一ハ^一喻^一して^一曰^一此^一の園^一中^一の樹^一葉^一ハ^一汝^一等^一意^一ハ

任^一せ^一と^一皆^一食^一ふ^一と^一可^一ま^一り^一獨^一善^一惡^一を^一し^一る^一の^一木^一ハ^一必

を^一食^一ふ^一魚^一う^一ら^一ま^一食^一と^一忽^一ち^一死^一ふ^一ん^一と^一喻^一せ^一り

又^一曰^一神^一土^一を^一以^一と^一野^一ハ^一走^一る^一獸^一畜^一天^一ハ^一翔^一る^一鳥^一類^一を

造^一り^一之^一を^一此^一人^一の^一前^一ハ^一至^一ら^一し^一め^一夫^一々^一名^一を^一命^一せ^一し

む^一回^一り^一て^一鳥^一獸^一諸^一畜^一銘^一々^一名^一を^一備^一へ^一と^一り^一此^一鳥^一獸^一ハ

其^一名^一有^一る^一ハ^一此^一人^一の^一功^一積^一ふ^一り^一又^一此^一人^一を^一亞^一當^一と^一名

付^一く^一ア^一ダ^一ム^一と^一ハ^一人^一間^一の^一根^一元^一又^一最^一初^一の^一男^一と^一も^一譯

を^一神^一の^一思^一へ^一ら^一く^一一^一人^一ハ^一諸^一の^一鳥^一諸^一の^一獸^一及^一ハ^一樹^一木

地^一処^一を^一も^一主^一ら^一し^一め^一て^一ハ^一誠^一ハ^一苦^一勞^一ふ^一ら^一ん^一是^一り^一匹

偶^一の^一物^一を^一持^一ら^一へ^一て^一功^一業^一を^一助^一け^一し^一む^一し^一と^一て^一亞

當^一ハ^一快^一と^一睡^一ら^一せ^一と^一其^一股^一骨^一を^一切^一り^一て^一肉^一の^一付^一と^一ふ

世界七... 一

俣を殺とり其股骨と肉とを以て始めて女を造
 り出せり而して是を亞當と賜ふ亞當悦んて曰
 是は肉の吾肉なり是は骨の吾骨なり甚だ善と
 言へり此を以て凡人父母の別るゝ事ありと
 そ好く其妻との合へり二の者の即一體なる此
 故なれそあり此を名付て伊布といふイブと
 を宍有りて物を生る此処と訳せり是天功の代
 りて子々孫々蕃育をる事を第一となせ此名ふ

りよよそ斯の如き故ありて男女の生れとれど
 そ未だ裸體ふゝて羞ぢと言ふ事を知らずとい
 へり

問曰女の男の隨ふに此理より起りたりや又外
 の故有る事をりや

答曰神の造りし物の中は蛇より惡賢フルガシこそ物ふ
 一此物女を謂曰神汝共に此園の中は各樹皆食
 とはへり唯此の善惡をりる葉樹は食ふべから

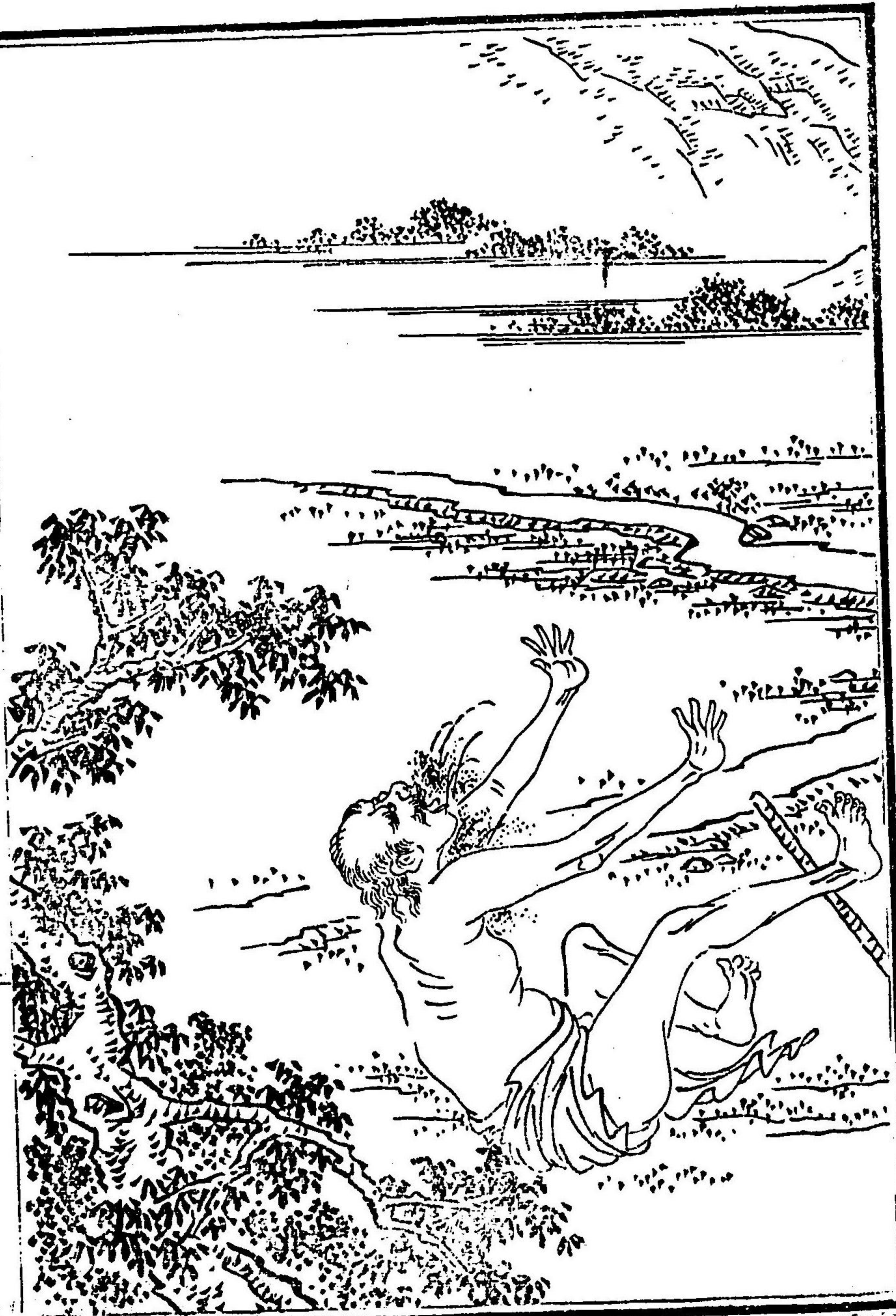
せと言へり然まとも此木の實を食ふとも決
 て死ぬるまふし且又是を食もぐ其心聰明ふ
 ーと言へり女此時此樹の下ふ至り熟く視るふ
 誠ふ食物ふ宜うるへく何となく心を悦びめ
 智慧をそ増んと思えきて終ふ此樹の實を摘採
 りて己ま先食ひ其上夫ふも與へままて亞當も
 又是を食へり果して夫婦の者双眼頓ふ明りり

ふまり始めて銘々此裸體なるを知り大ふ耻
 る心起まり是善惡を知る此實を食ひふ曰て
 まり是ふ於て無花果樹の葉を編きて犢鼻禪と
 して之を着けとり此時日西ふ是きて涼風爽然と
 り神是ふ乘して園中ふ來まり夫婦の者爽然と
 る声を聞くと俄ふ木の蔭ふ藏まとり神呼て曰汝
 共を何の處ふ有りや對曰吾裸なる故ふ君の至
 きふ声を聞て愧るまわりて茲ふうくまより神

世説新語 卷之三 十一

の曰誰り汝が裸體あるを教よりや堅く止置と
 る彼の樹の實を何故か食ひしぞ對曰此女此の
 樹の實を採りて與へとり故か吾之を食へり神
 又女か向ふて曰汝の為処何の意ぞや答曰蛇吾
 か教へとり故か吾之を食へり神又蛇か向て曰
 汝既か此の如き事を言ふとるを以て諸の畜獸
 の為か誼のりてき害せられむ罪有るか曰りて腹か
 て歩行し生涯塵を食とふし苦心をへし又夫か

告て曰汝は此婦と仇と成りしめん汝の裔と婦
 の裔と又仇と成りむ婦汝の首を撃とい爾將か
 其踵を撃とむ永世仇敵の子孫と作さむ又婦か
 言て曰汝を違令此罪あるかよりて胎孕の苦勞
 を與へく重く罰をへし子を生む正か難かるべ
 し又汝か夫を慕をせん夫を汝殺支配をへし又
 夫か言て曰汝の妻か言しを聴りや汝を吾命令
 か背きし故生涯苦勞して食を得せしめむ田中



此菜蔬を食ふふや或ハ荆薊あざみハ惱なやまれ草萊くさらいハ侵
 さまむ汗あせを流ながして後のち纒たづり食を得えん元もと土つちより
 出来いと此このハ固かたより塵ちりふり必かならずも復また塵ちりとなる一いつ
 と丈々さかさま罪科つみかを負おせられとり此この時とき若ごと神かみの教しよ示しを
 取り守まもり其その使つか令しよハ背せうをハ都みやこと人ひととる者ものハ安
 樂やすハ勿な論ろん永とこ世よ悠ゆう々々として死しまるとあふらふべ一
 神かみ夫婦ふとごハ皮かわの衣えを製つくりて此このを着きせしむ而しかして
 曰いは人ひと能あたく善よと惡わるとを辨わ別べせり形かたちも己おのハ吾われハ髣ふさ

髣ふさとり恐おそらくハ其その手てを述のへる彼かの生い命めいを司つかさと
 するの木きの實みを取とり食をひをむ永とこ世よ不た朽くなりむと
 言いひく即すなはち埃い田でん樹じゆ園えんより丈さか婦ふを追お出しりとり自
 うら苦心くしんして食を得えせしめんとの事ことあり遂すに
 彼かハ還かへる事ことを得えさらんら為なめハ天あま狗いぬ共ともハ命いのち一
 て光ひかり輝かがく劍けんを振ふ廻まわり此この園えん林りんの道みちを見み失うせしと
 り
 按おさるに天あま狗いぬと言いふ物もの吾われ國くにハ有ありて往い々

世尊の御説 卷の五

大愛格又ハ争乱の時ハ世ハ奇恠を顯てす者
 たり支奈ふてハ嘗て聞ッぢ或人ハ仙人とい
 ふ者を吾國の天狗と同一といへとも左ハ非
 是ハ隱遁又ハ長壽を求る者此稱なり然る
 西^ニ洋の天狗ハ人物牛馬又獅子鷲等此猛氣
 此凝結せる物と云へり然きを吾國此天狗説
 ハ異あるとを^レ或ハ誤して高位の天使とも
 言へり是亦吾國の説ハ似とり吾國ハ高僧智

識又ハ苦痛して死^レ者の氣魄結と天狗と云
 り皇上此御為ハ惡邪を拂ハ慢心の者を製
 と言へり茲の天狗も善く似とりと思へる

問曰其後夫婦ハ何如カインして暮せ^レや

答曰其後ハ夫婦一處ふをりて該隱と言ふ子を
 生^ミ又亞伯亞伯アベルと言ふ次子を生めり兄ハ農夫
 とあり田を耕^シ弟ハ牧畜者となり牛羊を飼へ
 り或時兄該隱地上の穀物を神ハ供へとり弟亞

伯亜伯之己まぐ畜とふ羊此初めの子を供物と
 き此時神ハ兄ヲ献せし物をも顧みせき弟の供
 物を喜びとり兄勃然として怒の顔色を顯せり
 神曰怒るこまりぬ汝善を為さる吾喜む汝不
 善を為さる吾怒らざるとも凶事汝の門戸ハ隠ま
 る汝を禍せん是を防ぐ事を得んやと言へり或
 時談隠兄弟田ハ行て談話の末兄大ニ怒り弟を
 討殺せり神曰汝の弟何の所ハ行りや談隠對曰

我弟の番人ハ行り以何ぞ知る事を得ん神曰汝
 何ハ故又弟を殺せしや其殺せし時弟此血声を
 出して地上より吾ハ訴へとり又汝ハ手此中よ
 り流き出とる弟此血ハ大地口を開きて是を受
 取とり地汝の為めハ詛ひる力を出さず是を以
 て地を耕まるとも必も利益ハナド汝ハ四方流蕩
 遍歴者と成へし談隠答曰吾罪甚重し今日君よ
 り此地を追出ささふは再ハ君の前ハ至る莫能

之ド果して地上の漂流者あり且吾を認る者皆
 吾を殺さんとせん如何がまへーやと歎きとり
 其時神又令を出して曰是の該隱を殺す者らら
 へ其罪彼ふ七倍せんと言へり是ふよりて殺さ
 きぬ徴を得とり乃ち神の面前を去る埃田の東
 まる^{ノラト} 椰^{ノラト} 得と言ふ地ふ住居せり
 問曰該隱ハ妻を持しや
 荅曰妻を娶りて子を生めり名を以諾^{イノケ}と言ふ從

ふく一の村を建とり子の名をとりて以諾村と
 名付く以諾^{イノケ}伊良徳を生ミ伊良徳米布雅利を生
 み米布雅利^{ノフシアル}馬士散利^{ノリセル}を生み馬士散利^{ラノス}拉麦^{ラマ}を生
 めり拉麦二人の妻を娶り一は^{アダイ}丑^シ太一^ラを洗^シ拉^ラ亞^ア
 と言ふ亞太^{ジャバル}ハ雅^{ジャバル}八^ハを生む天幕を張り牧畜する
 者の大祖とり天幕を張といハ水草を追ひ山野ふ
 幕を張りて雨露を凌ぎ畜類を育る者ふり其弟
 儒^{ジエバル}八^ハ利^リハ琴^シ鼓^コ箏^{ソウ}吹^フども此大祖とふる雅^ヤ八^ハ又^マ土^ツ



ハールカイシ
八該隱を生めり此者ハ銅鐵鍛冶師とふれり

問曰亜當夫婦其後ハいウハ

答曰大祖亜當夫婦又一子を生ミ世壽セスと名づく

世壽伊乃須イノスを生ヒ此時より人々初めク造物主

此名を唱へ國土元始の神徳を稱賛せりと言ふ

問曰亜當の血統といウハ又年齢も近世人の如

きリ異同アリヤ

答曰先ハ語りとする如く造物主已まウ形像ハ肖

せク始て人を造きり即ち男女阿リ之を祝して

人と呼ビ男の名を亞當と名附とり近古の人

と違ヒ其時代甚ど長命なり言ハハ奇怪ハ近

吾國上代の傳へキ斯の如ク世界ハ都てウク有

リト思ハルヘク其大畧を言えん亞當ハ一百

三十歳サトハして始めて已ハ類トス男子を生む

其名を設セスと呼ふ設生きて八百年を歴ク亞當猶

多くの子供を生めり亞當此年壽九百三十歳ク

り設へ一百五歳イノスふと哪士を生スと八百七年を歴
 て猶子供を生む設へ九百十二歳カイカふして死スと哪
 士九十歳カイカふて該南を生み其後百十五年を歴ク
 猶子供を生む哪士九百五歳マハラリールふと死スと該南七十
 歳の時馬士散拉マハラリールを生クと其後八百五十年を歴ク
 猶子供を生めり該南の壽九百十歳マハラリールふり馬士散
 拉マハラリール六十五歳の時士亞列ジアラットを生クと其後八百三年を
 歴テて猶子供を生む馬士散拉八百九十五歳マハラリールふ

て死スと士亞列百六十二歳の時以諾マハラリールを生クと其後
 八百年を経テて猶子供を生めり士亞列九百六十
 二歳マハラリールふして死スと以諾六十五歳マハラリールふて馬勢拉メスセラを生
 み其後三百年を歴テて猶子供を生めり以諾三百
 六十五歳マハラリールふして死スと馬勢拉百八十七歳マハラリールふて羅
 馬士メスを生み其後七百八十二年を歴テて猶子供を
 生めり馬勢拉九百六十九歳マハラリールふして死スと羅馬士
 百八十二歳マハラリールふて一子を生み名付けて那亞ノアと言

ふ此者賢明あり皆祝して曰吾等共神不怒らま
 地不誼をまじりと此者の力ふよりて必也地上此
 諸物蕃茂して生涯安穩を得ん是れ日用の諸器
 械迄も此者の功用ふよりて便利を得んと言へ
 り耶亞生れと五百九十五年羅馬士猶子供を生
 めり而して七百七十七歳ふして死き耶亞五百
 歳世迷波武^{セームハム}遮比士^{シラフス}と言ふ兄弟三人を生めり
 問曰貴諭ふと始めて知る古代の今人との格外

の長壽あり然る時ハ亞當を始め一族ハ孫の孫
 又其孫々をも見とる程の生命を保てり定めて
 耶亞の時代ふ至りてと此世界も余程多分の人
 民蕃殖しとらんと思はる然るふ神の令ふ依ま
 り亞當夫婦の子孫ふ々互ハ仇讐をも生せしめ
 んと有りし抑も和睦して能天理ふ遵ふて無
 そふりや

答曰茲ハ天下此大變革あり寛々語るへ彼亞

當の正統を指を屈めて數ふまゝ耶亞メスセラに至りて
 纒メスセラふ十代ふれとも其最も長命あるハ馬勢拉赤
 リ前ふ言ひく如く九百六十九歳の壽より最短
 まる者ハ以諾より然まとも尚三百六十五歳ふ
 リラメス近古の人の保ちグとき長壽ありどや其次ハ
 羅馬士七百七十餘其外ハ何れも八百九百歳以
 上ふれど亞當の生年より哪亞ノアの生年迄ハ既ハ
 一千數十年の永きハ及へり此の如き此年月を

歴とまゝ此世界追々人民増し加りて神孫一族
 互ミひふ吾僂隨意を働き美しき女子を乞ヒ好
 こに任せく各々婚姻を為し尚惡狀繁多あり神
 の曰我ハ世人の過有まハ即争鬪ふ至り且隨意
 の行をふし仇敵を醸まを好まど人も亦これ
 と同しき形状ふまをこ思ふふ此者どもの生命
 ハ姑く一百二十歳を與ふべしとなり何とぞれ
 人の為も処皆惡まりて長命ハ遇々惡攻深く

まゐる迄此物おれをふり又此時代當今よりハ格
外ハ人々五體高大ハ一て諸子孫の中英雄頗る
多ウリ一あり年を追ふて人の智慧も亦開け仁
と義も進まざるハよりて造物主を大ハ歎息
一地上ハ人を造りとるを後悔一て悲傷をるハ
至まり是ハ於て熟思一て曰吾一度ハ人畜鳥獸
及ハ昆虫迄も此の如く蕃殖せ一めとまとも真
ハ保護為一難き勢と成りとりさすまご全世界

中の物を一旦翦滅一て後舉を謀る此外事を
るべ一といふハ成りて生類ハ亡ハされとり
問曰教の如くならむ今人ハ昔の人種ハ何らド
又記載も有ま一けれも前世の人名や血統を何
如ハ一て今代ハ傳へ一りや疑を生せざる事を
得も尚教諭を願ふ処ナリ
答曰疑ハ最ふり請ふ詳ハ其所以を語らむ此時
獨椰亜の一族のミ神ハ助けられとり椰亜ハ正

以上画園
半山直多雲



直の義人なり神も大に称美して完き人とさへ
免し賜へる程の者なきばかり故に神より三子
を賜りとり即閃^{ヒームムシアフス}含雅弗^{ヘイムムシアフス}あり造物主思へらく大
洪水を全世界に起し地面を暫く埋没せしめむ
万物之が為のみ腐敗を可との謀畧あり其以前
挪亜を呼びく教へ諭して曰諸動物大凡呼吸生
氣ある者の類此世界と共に一旦全滅せんとし
其期近しあり汝へ暗^{アルク}久といふ船を作為せよ吾

も衆へし其製作ハ乃ち松の木を剝りて方舟と
ませ又土壌を以て一室毎に塗塞き船の長さ大
約三百尺幅大約五十尺高三十尺ありて傍に門
を設け一箇の窓を明も上中下三階に造るべし
と教へとり挪亜悉皆神の教に随ひて製造しと
り神又曰吾地上に洪水を氾濫せしめ天下の血
氣ある物悉く亡がすといへども汝に一族の助
くべし吾命に背事をく汝の妻子を此船に入ま

鳥獸昆虫も各種の一種を妻子と共ニ携へて又
各種の食物を用意せよ又曰汝の家族と各種の
鳥類を携ふべし其鳥類ハ奇麗なる物を汝の好
ム任せて七つ宛を取其美ふりたる者ハ二
つ宛を取此物を再ハ地上ニ遍りしめむ今
より七日ニ及んで大雨を降し始り四十日此間
晝夜降續けぬすべし必以血氣ある物盡殺して
見よへしと悉く約諾を結へり去るハ七日の後

椰亞の六百歳二月十七日大淵の泉源大ニ破れ
又天の窓を開きとり果して四十日之間晝夜大
雨降り下りとり椰亞閃會雅弗の三子と己ガ妻
及ハ三子の妻等と暗久アルク船ニ乗移り鳥獸昆虫迄
も神の命令ニ任せ相携へとり即神も此船ニ
乗とり彼窓を閉ざしれを洪水地ニ溢るまじも
船ハ地上ニ高く浮り水勢大ニ逆流し天下の
千山万壑没入して水ハ諸山より高きそ十五尺

世界物語 卷之三 十一

餘より是ふ於く地上に住まはる物人種を初の鳥
獸昆虫凡く生氣有りて空氣を吸ふ物の類皆没
して遺噍有るをまへ彼暗久船アルクに乗る者のみ
生き残るを得たり洪水地上に奔溢する事凡
百五十日ありて神始めて大淵の泉源と天の窓
を閉り雨漸く歇き地上の洪水漸々退去せり
船ハ七月十七日亞細亞の西部亞喇臘アララツトと言ふ山
上にお止りたり十月一日始めて此の亞喇臘山の

頂を頭より椰子船の窓を開き鳩を出して諸
方を巡見させ夫より水の乾くを認め船より
出て船中の諸鳥獸を放ち遣りたり三子一旗此
亞細亞北西部今の敦苦地方トルコに住居して當今世
界人民の大祖と成りたりと言ふ三子各子孫を
携へ五大洲に蔓延せりとは是西洋各國の世界
開闢説あり椰子以前の人を前世界の人と謂ふ
あり今日人種の區別各國言語の不同も皆三子

より出とりとの説有り餘り長談を此の後日又々語るへー汝等春秋ふ畱ぬれを成長ふ隨ひ万巻の書を讀破り尚其真理を研窮し日新の功を積む世人を喻し蒙昧を開きつゝ

世界のそと 絶巻の二終

明治八年庚五月十日官許
同 八月 發兌

豊前小倉烏町一丁目
蜂谷嘉六

